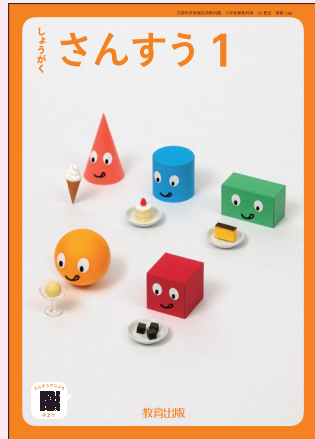


令6版『小学算数』

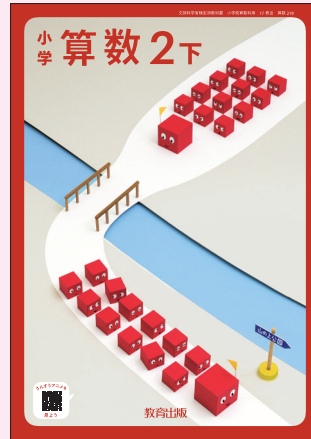
観点別特色



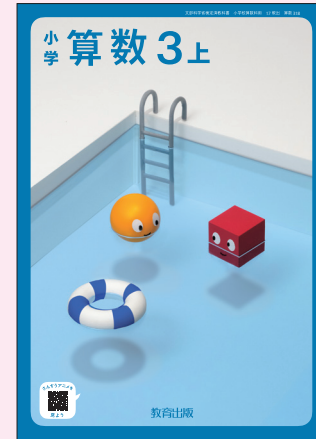
1年 算数118



2上 算数218



2下 算数219



3上 算数318



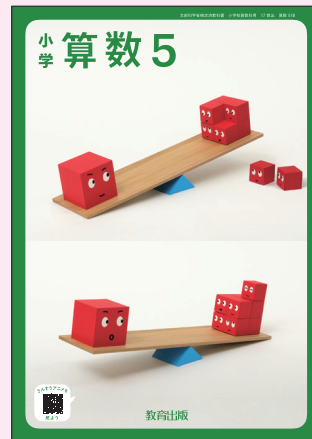
3下 算数319



4上 算数418



4下 算数419



5年 算数518



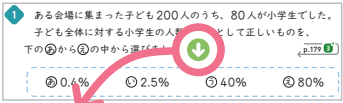
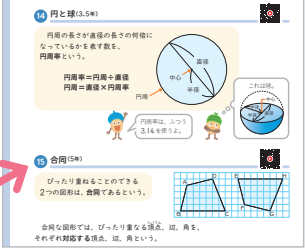
6年 算数618

目次

A 目標	2	D 組織・配列	10	G 絵・写真	11
B 指導計画と内容の取扱い	6	E 分量・時間	11	H 印刷・造本	11
C 内容の程度	10	F 表記・表現	11	I 創意・工夫	12

❖ 教育基本法の理念の実現及び算数科の目標達成にあたって、必要な内容が適切に取り扱われているか。

A 目 標	観 点	特 色	具 体 的 な 事 例
	1. 数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動がなされるように配慮しているか。	①予測困難な時代を生き抜く子どもたちの資質・能力として「問いつづける力」の育成を編集方針の軸とし、「問題解決力」だけでなく、「問題発見力」「問題追究力」にも焦点をあてています。 また、全巻を通じて、数学的活動の過程を「はてな？⇒なるほど！⇒だったら！？」という問いの連続で構成し、主体的・対話的で深い学びが実現されるようにしています。	●単元1～3では、「問題発見力」「問題解決力」「問題追究力」に焦点をあてた学び方のモデル単元を設定しています。身近な場面をもとに「子どもの思いから問いを発見する過程」は、主体性を引き出し、学ぶ意義を実感することにつながります。また、答えが出たあとに「見方・考え方を振り返って新たな問いを見いだす活動」は、学習の個性化として展開していくことにもつながります。 ☞(2年以降 学年4回) 2上p.11～13、p.19～21、p.42～43、2下p.41～43等 ●全学年を通じた学習の基本展開として、子どもの【はてな？】から学習めあてをつくり、主体的・対話的な学びをととして【学びを深める問い??】を焦点化し、見方・考え方を【なるほど！】でまとめ、さらに、新たな問い【だったら！？】へとつなげて学びを深めていくようにしています。☞1年p.112～115、2上p.48～52等 ▲ 6年p.25～27
	2. 目的意識をもって学習に取り組めるように教材や問題提示を工夫するとともに、単元のまとまりとしても学びを深め、算数を学ぶ意義を実感できるように工夫しています。	②目的意識をもって学習に取り組めるように教材や問題提示を工夫するとともに、単元のまとまりとしても学びを深め、算数を学ぶ意義を実感できるように工夫しています。	●単元導入の【きっかけ】ページでは、身近な場面から問題を見出し、算数の問題としてモデル化し、目的意識をもって数学的活動に取り組めるようにしています。 ☞きっかけ (2年以降) 2上p.18、3上p.122、6年p.194等 ●単元末【学んだことを使おう】では、単元で学習したことを活用することで、「何ができるようになったか」を実感できるようにし、単元のまとまりとしても主体的・対話的で深い学びが実現できるようにしています。 ☞学んだことを使おう (2年以降) 2上p.29、3上p.132、6年p.203等 ▲ 2上p.18 ▲ 2上p.29
	3. 数学的な見方・考え方を顕在化し、繰り返し用いていることを意識づけ、課題を解決したり探究したりする際の手段として、子どもが主体的に活用していけるように工夫しています。	③数学的な見方・考え方を顕在化し、繰り返し用いていることを意識づけ、課題を解決したり探究したりする際の手段として、子どもが主体的に活用していけるように工夫しています。	●各単元の前半で見いだした数学的な見方・考え方を、コラム【つながるミカタ】で顕在化し、後半の学習で自ら活用していけるようにしています。「ミカタに気づく⇒振り返る⇒また使う」というサイクルにより、自ら学びを進めていく力を育てます。 ☞1年p.116、2上p.52、3下p.44、4下p.83、5年p.211、6年p.150 ●コラム【つながるミカタプラス】では、見方・考え方を領域を超えてつなぎ、そのよさについての理解を深めています。例えば4下p.22では、L字形の求積を「分けて求めて、あとでたす」という見方で解決したことを振り返り、筆算をするときにも、位ごとに「分けて求めて、あとでたす」見方を使ってきたことと結びつけています。 ☞(2年以降) 2下p.79、3下p.49、4下p.22、5年p.217、6年p.184 ●巻頭では、【算数で使いたい見方・考え方】のコーナーを設け、前学年で使った見方や、算数を学ぶうえで大切な考え方を一覧で掲載し、繰り返し参照しながら、数学的な見方・考え方を活用できるようにしています。 ☞(2年以降) 2上p.4～5、3上p.4～5、4上p.4～5、5年p.4～6、6年p.4～6 ▲ 3下p.44 ▲ 4下p.22

観 点	特 色	具 体 的 な 事 例
2. 基礎的・基本的な概念・性質 や、数理的に処理する技能を 身につけることができるよう に配慮しているか。	①デジタルのよさを生かして、毎時の知識・ 技能まとめをアニメーションで表現して、 文字だけでなく視覚的にも理解が深められ るようにしています。	●毎時のまとめでは、【まとめアニメーション】を使って動かしながら説明する活動を取り入れています。例えば2上p.120の三角形の定義では、「3本の」「直線で」「囲まれた」という条件が視覚的に捉えられます。 ➡(各毎時のまとめ) 
	②各種学力調査の結果等をふまえ、つまずき やすいポイントを意識しながら学習できる ように工夫しています。	●各単元末の【まとめ】では、典型的な誤答がみられる問題について注意し て取り組めるように、マークを付けて意識化を図っています。また、その 問題に対して、【考えるヒント】を掲載し、「図に表して考えよう」「わかり やすい問題に置きかえてみよう」「問題を分けて考えよう」などの着眼点と を与え、問題に取り組むきっかけをつかめるように支援しています。 ➡(2年以降、4年以降は全単元末) 2上p.77、3上p.107、3下p.63、4下p.24、4下p.63、 5年p.162、5年p.227、6年p.21、6年p.84等 
	③既習事項を繰り返し参照できるようにする ことで、生きて働く知識の習得が図られ、 技能の習熟にもつながるように工夫してい ます。	●既習事項の一覧を巻末【学びのマップ】に掲載し、関連する単元からリンクし、 わからない箇所があれば子どもが自ら振り返って確認できるようにしています。 ➡(2年以降) 2上p.148～151、6年p.276～287等 
	④「毎時の学習」「単元のまとめ」「家庭学習」 の各段階で、習熟を図るための練習問題を 豊富に設け、基礎・基本となる学習内容が 確実に定着されるように工夫しています。	●「毎時の学習」では、学級全体での練り上げ・解決・まとめのあとに、【たしかめ】の問題を位置づけています。 学級で練り上げた解決方法を自分の力で再現できるかを、子ども一人一人が確認したうえで、反復練習に取り組めるようにしています。➡(2年以降) ●単元末の【まとめ】では、「知識」「技能」「見方・考え方」に分けて学習内容を確認できるようにしています。【ふり返ろう】では、基礎・基本となる「知識」を簡潔に整理しています。【たしかめよう】では、「技能」面での習得を確認できるようにしています。また、「見方・考え方」は【4コマ漫画】で振り返れるようにしています。 ➡(2年以降 各単元末) ●「家庭学習」や習熟度に応じた学習に使える練習問題【ステップアップ算数】を設けています。毎時の学習からリンクし、【きほんの問題】と【ジャンプ問題】のレベル別の問題で構成し、子ども一人一人の学力を伸ばすようにしています。練習問題に繰り返し取り組む中で基礎・基本の定着を図るとともに、学習習慣を確立していくことにも配慮しています。 ➡(2年以降) 2上p.135～144、6年p.246～265等 

観 点

3. 見通しをもち筋道を立てて考察する力、統合的・発展的に考察する力、数学的に表現する力が育成されるように配慮しているか。

特 色

①発表・話し合いの場面では、図や式などを用いた多様な考えを掲載し、数学的な見方・考え方を働かせて筋道を立てて考察する姿を示しています。また、それらの考えのよさや本質について話し合う段階を位置づけ、学びを深めていけるように工夫しています。

②問題解決をとおして見いだした見方・考え方を振り返り、統合的に考察する場面を設けています。また、振り返りをとおして次の問題につなげていくなど、発展的に考察する力が育成されるように工夫しています。

③テープ図（線分図）や数直線、式などを使って考えたり説明したりする力が、段階的に育てられるように工夫しています。

④ノートに書く活動を重視し、数学的な思考力・表現力が高められるように工夫しています。

具 体 的 な 事 例

●具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて発表したり話し合ったりする活動を随所に設けています。図を用いた考えを式で説明したり、式を用いた考えを図で説明したりするなど**表現を相互に関連させながら、言語活動をとおして数学的に考えたり表現したりする力が育成されるように**しています。

●よさや事柄の本質に向かう【**学びを深める問い？**】を示し、話し合いを方向づけ、焦点化できるようにしています。「発想の源への問い」「表現に関連づける問い」「結果を吟味する問い」「考えの本質にせまる問い」などによって、**多様な考えのつなげ方、広げ方、深め方を身につけられるように**しています。

☞(2年以降) **2上p.20、3上p.98、4上p.66、5年p.206、6年p.124等**

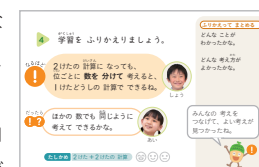


▲ 2 上 p.20

●授業のまとめでは、知識や技能だけでなく、見方・考え方も振り返ります。「どんな見方をしたらうまくいったのか」「今日はどんな考え方を使ったのか」などを振り返り、【**なるほど！**】のフキダシでまとめます。

●授業の終わりは、新たな問いを見いだして次時につなげていきます。問題解決のプロセスを振り返り、【**だったら！？**】のフキダシで、「数や形を変えてもできるか」などと問題を広げていきます。

☞(2年以降) **2上p.21、3上p.98～99、4上p.66～67、5年p.206、6年p.125等**

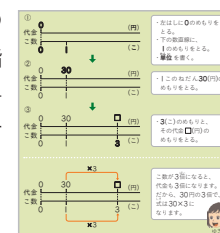


▲ 2 上 p.21

●見方・考え方を活用する力を重視し、単元のまとまりで「ミカタに気づく⇒振り返る⇒また使う」というサイクルを取り入れています。☞本資料p.2 A-1-③

●**2上p.78～81**【たし算とひき算の図】、**3上p.136～139**【かけ算とわり算の図】の準単元を設け、テープ図と数直線の見方・かき方、演算決定のときの活用のしかたを指導する時間を設けています。また、以降の学年にも【**学びの手引き**】として同様のページを掲載し、演算決定の場面で繰り返し参照できるようにし、思考・表現の道具として定着するようにしています。

☞(2年以降) **2下p.118、5年p.296等**



▲ 3 上 p.138

●低学年においても、第1学年から計算のしかたを○などを使って表現する活動を取り入れ素地を培い、**図を用いる力が段階的に育成されるように**しています。

☞**1年p.47、1年p.72、1年p.172等**

●式のよみ方、表し方について、繰り返し扱うことで理解を深め、式を活用する能力を伸ばしていきます。また、前述のテープ図や数直線の見方・かき方とともに、式と図を結びつけて考えられるようにしています。

☞**1年p.108～109、1年p.170、2下p.8、3下p.73、4上p.108、5年p.99、6年p.120～121等**

●1時間の授業のノート例を示すなど、**ノートに書く活動を重視**しています。友だちのノートを互いに見て、よいところを見つける活動も取り入れ、学級全体の学力が向上されるようにしています。

☞(2年以降 学年2回) **2上p.30～31、5年p.32～33等**

観 点

4. 数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度が育成されるように配慮しているか。

特 色

①単元導入では、身近な題材から算数の問題を見いだしたり、既習事項を発展させて子ども自身が新たな問題をつくったりできるようにして、目的意識をもって数学的活動に取り組めるように工夫しています。

②単元末では、学習したことを活用して日常場面や算数の問題を解決する機会を設け、「何ができるようになったか」を実感できるように工夫しています。

③学年末では、日常の事象を数理的に捉えて問題発見、問題解決する一連の数学的活動を行う場面を設け、資質・能力の高まりと数学のよさを実感できるように工夫しています。

④新学年の始めに、授業開きの特設教材を用意し、問題解決の楽しさを味わいながら、学習の進め方・学び方、算数を学ぶ態度について、学級で共有できるように工夫しています。

⑤巻末の探究的なページや各種特設教材、コラムでは、算数への興味・関心を一層高められるように工夫しています。

具 体 的 な 事 例

●単元導入の【きっかけ】ページでは、「予想する」「やってみる」「話し合う」「振り返る」などの能動的な活動を最初に設定することで、子どもたちの主体的な学びを引き出します。目的意識をもって学習に関わることで、事象を数理的に捉える力を養うとともに、算数を学ぶ意義や楽しさを味わえるようにしています。例えば3上p.122では、玉入れの的に対して公平に並ぶ活動から円の定義を見いだします。また、5年p.190では、東京都の特産物をグラフで伝えることについて話し合う活動から割合グラフの学習へとつなげていきます。

☞(2年以降) 2上p.11、3上p.26、4上p.110、5年p.130、6年p.11等

●単元ごとの活用問題として【学んだことを使おう】を設け、身のまわりから算数を見つかったり、算数を使って日常の問題を解決したりします。例えば、3下p.101では、乗法の学習の活用問題として、階段1段分の高さで段数から校舎の高さを求める問題を扱い、算数を実生活に活用するよさが感じられるようにするとともに、読解力・表現力を育てるようにしています。

☞(2年以降) 2上p.58、3上p.35、4上p.89、5年p.187、6年p.166等

●学年末の活用問題【算数を使って考えよう】では、算数で学習したことを総合的に活用する問題に取り組みます。例えば、5年p.256～259では、「情報の読み取り・関連づけ」「根拠の説明」「批判的考察」「表現の評価・改善」といった全国学力・学習状況調査で出題されるタイプの問題を一連のストーリーの中で扱い、目的意識をもって解決していくことをとおして、算数を活用する力を育てていきます。

☞(2年以降) 2下p.102～103、3下p.116～119、4下p.132～135、5年p.256～259、6年p.206～209

●授業開き教材では、子どもたちが主体的に取り組めるオープンエンドの問題を用意し、具体的な問題解決の活動をおして、学習の進め方を理解できるようにしています。「別の方法はないか」「友だちはどう考えているのか」「どの考えがよりよいのか」「その考えはほかの問題にも使えないか」など、粘り強く考えて答えを見いだす喜びや、協働的に学ぶ楽しさを実感させます。

☞(2年以降) 2上p.7～9、3上p.7～9、4上p.7～9、5年p.7～9、6年p.7～9

●第4学年以降の巻末【広がる算数】では、各単元の【まとめ】からリンクし、算数の学習と現実世界とをつなげる探究的な教材を掲載しています。例えば5年p.292では、「単位量あたりの大きさ」の学習を発展させて、かみ나りの音が伝わる速さについて探究します。

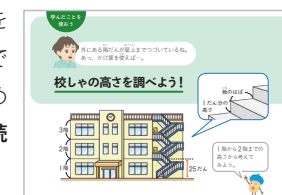
☞(4年以降) 4上p.161～165、4下p.156～164、5年p.289～295、6年p.266～269

●知識を広げるコラム【もっとやってみよう】【算数ひろば】【よくあるまちがい】を随所に設け、学習を広げたり、実生活との関わりに触れたりして、知的好奇心が高められるようにしています。

☞(2年以降) 2上p.32、2上p.113、3下p.41、4上p.114、5年p.132、6年p.43等



▲ 5年 p.190



▲ 3下 p.101



▲ 5年 p.292

❖ 指導計画の作成や学習指導上の配慮、及び内容の取扱いへの配慮は適切になされているか。

B	観点	特色	具体的な事例
指導計画と内容の取扱い	1. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善がなされるように配慮しているか。	①主体的・対話的に学習に取り組み、学びを深めていけるように、子どもの問いの連続によって数学的活動を進めていくように工夫しています。また、そのような問題発見・解決の進め方自体を学ぶページを設け、学級で共有できるようにしています。	●巻頭【みんなで算数をはじめよう！】では、問題発見・解決のプロセスを示すとともに、【まなびリンクを使って学ぼう】では、コンピューターの使い方を学べるようにしています。 ☞みんなで算数をはじめよう！ (2年以降) 2上p.2～10、6年p.2～10等 ●単元1～3では、「問題発見力」「問題解決力」「問題追究力」に焦点をあてた学び方のモデルページを設けるとともに、全巻を通じて、数学的活動の過程を「はてな？⇒なるほど！⇒だったら！？」という問いの連続で構成し、主体的・対話的で深い学びが実現されるようにしています。 ☞本資料p.2 A-1-① ●単元導入の【きっかけ】ページでは、子どもが能動的に関わる教材を用意し、目的意識をもって数学的活動に取り組めるようにしています。また、単元末【学んだことを使おう】では、単元で学習したことを活用して問題を解決する活動を設け、「何ができるようになったか」を実感し、単元のまとまりとしても主体的・対話的で深い学びが実現されるようにしています。☞本資料p.2 A-1-②、本資料p.5 A-4-①② ●多様な考えを取り上げ、それぞれの考えのよさや事柄の本質に向かう【学びを深める問い？？】を示し、多様な考えのつなげ方、広げ方、深め方を身につけられるようにしています。 ☞本資料p.4 A-3-① ●授業のまとめでは、知識や技能だけでなく、見方・考え方も振り返り、【なるほど！】のフキダシでまとめます。さらに、【だったら！？】のフキダシで問題を広げ、新たな問いを見いだして次時につなげていきます。 ☞本資料p.4 A-3-②
	2. 継続的な指導や学年間の円滑な接続に配慮しているか。	①学習の系統性をふまえ、スパイラルに学習を重ね合わせながら概念や見方・考え方等を拡張していけるように工夫しています。	●単元の導入などでは、既習事項との関連を図りながら学習内容を広げていけるようにしています。例えば3下p.36の「分数」では、第2学年の分割分数の学習を振り返りながら、量分数との違いを顕在化していきます。また、6年p.24の「分数と整数のかけ算、わり算」の導入では、乗法、除法で扱う数範囲を拡張してきた過程を振り返りながら、分数の乗法、除法が未習であることに気づかせます。 ●単元間に【復習】をはさみ、適宜理解を確認できるようにしています。例えば3下p.91や5年p.173では、次単元で必要な既習事項の確認問題【じゅんぶ】を設けています。
	3. 領域間の指導の関連が適切に図られているか。	①異なる領域の学習内容を相互に結びつけ、理解が一層深められるように工夫しています。	●目次では、学習の系統を示し、他単元とのつながりもわかるようにしています。また、既習事項の一覧を巻末【学びのマップ】に掲載し、関連する単元からリンクすることで、内容の関連性を意識して学習を進められるようにしています。☞本資料p.3 A-2-③ ●異なる領域の学習を結びつけて解決する問題を取り上げています。例えば4下p.75では、九九の図を使って面積や分配法則についての理解を深めます。また、コラム【つながるミカタプラス】では、見方・考え方を領域を超えてつなぎ、そのよさについての理解を深めます。☞本資料p.2 A-1-③

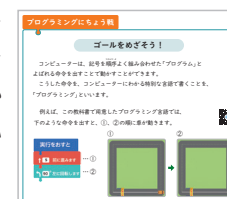


▲ 6年p.2～3

観点	特色	具体的な事例
4. 低学年における他教科等や幼児教育との関連、及び高学年における中学校との接続・連携に配慮しているか。	①第1学年の算数入門期では、就学前の体験をふまえ、生活科等との関連を図り、スタートカリキュラムとして扱えるように工夫しています。 ②高学年では、中学校への接続をふまえ、統合的・発展的な見方・考え方を伸ばしていきます。また、第6学年の最後には、算数の総まとめをして自信をつけるとともに、中学数学につながる教材にも触れ、進学への期待感が高められるように工夫しています。	●例えば1年p.8やp.22～23では、学校生活や生活科、国語科の活動と合科的・関連的に扱えるようにしています。1年p.31～33では時計の学習を1学期の早い時期に扱い、学校生活を円滑に始められるようにしています。また、例えば1年p.77やp.111など、第1学年の全単元にとびらページを設け、生活経験をきっかけに学習を始められるようにしています。 ●第6学年の最後には【算数をふり返ろう！もっと楽しもう！】を設け、復習と探究のページで構成し、学習の個性化を図る機会を設定しています。復習については、【算数のまとめ】として各領域の練習問題で知識・技能の定着を確認するとともに、見方・考え方についても【4コマまんがギャラリー】で楽しく振り返れるようにしています。また、探究については、「数学へのとびら」「パズルのとびら」「歴史のとびら」「社会のとびら」で構成する【Let's Try】のコーナーで、算数から数学の世界へと学びを広げていきます。6年p.214～245  ▲6年p.216～217
5. 他教科及び学校の教育活動全体との関連について配慮しているか。	①教科横断的に取り組める教材を設けたり、短時間学習としても扱えるページを設けたりするなど、カリキュラム・マネジメントに配慮した構成になるように工夫しています。	●例えば3上p.26～34「時こくと時間」では町探検の活動を題材にして社会科との関連を図ったり、4上p.42～49「折れ線グラフ」では気温調べの活動を題材にして理科との関連を図ったり、4上p.21では身のまわりの数の表し方と英語による数のよみ方を扱ったりするなど、教科横断的に取り組めるように教材を工夫しています。 ●各単元の【まとめ】の内容は、「見方・考え方」「知識」「技能」に分けて、それぞれ10分から15分程度の短い時間を活用して取り組めるように構成しています。本資料p.3 A-2-④
6. 障がいのある児童等の学びやすさに配慮しているか。	①支援を要する子どものさまざまな困難さに配慮するとともに、インクルーシブ教育の観点から、だれにとっても学びやすくなるように工夫しています。	●識別しやすい配色を用いるとともに、図版に色名を付記して色調以外でも区別できるように配慮しています。色覚等の特性をふまえたカラーユニバーサルデザインで、NPO法人CUDOの認証を取得しています。 ●文字には、ロービジョン（弱視）やディスレクシア（読み書き障がい）に配慮した「UDデジタル教科書体」を採用しています。紙でもタブレットでも電子黒板でも読みやすい書体です。 ●全学年において、読みやすい改行に配慮しています。特に、低学年の文章題では、条件文と求答事項を短文で区切り、問題文と図や式を対応させやすくしています。 ●抽象度の高い算数用語は、言葉の対比や図解などによって意味を捉えやすくしています。例えば4上p.115では「垂直」と「直角」の違いを対比して説明し、4上p.116では「垂直はあるが直角はない図形」を例示しています。また、5年p.132では「平均」の字義をイラストで説明しています。1年p.188では、文章題の答えに用いることが多い助数詞の一覧を掲載しています。 ●作図等の手順を連続写真で丁寧に示すとともに、動画にもリンクし、指導時期以外でも繰り返し参照できるようにしています。本資料p.3 A-2-③、本資料p.8 B-10-① ●余白を生かし、内容のまとめりや目線の移動の順序が捉えやすいレイアウトや、落ち着いた学べる色調などに配慮し、専門家の意見をもとにだれにとっても学びやすい紙面になるように工夫しています。 ●教科書用紙として最軽量の紙を採用し、児童負担に対して最大限の配慮をしています。

B 指導計画と内容の取扱い

観点	特色	具体的な事例
7. 道徳科などとの関連に配慮しているか。	①自律的な学習態度や学習習慣が形成されるように工夫しています。	●巻末に【自分で取り組むページ】を設け、【家庭学習のヒント】として、答え合わせをしたり授業を振り返ったりすることを促し、 自律的な学習態度や学習習慣が形成されるように しています。 ☞(2年以降) 2上p.135等
	②自他の考えのよさを認め合う場面を取り上げ、学び合いのよさが感じられるように工夫しています。	●友だちのノートを見合う活動を設け、「友だちのノートの書き方のいいところを見つけよう」と促すなど、 互いのよさを認め合う心 を育てるようにしています。 ☞本資料p.4 A-3-④
	③集団や社会との関わりの大切さが感じられるように工夫しています。	●例えば 2下p.102～103 では、 進んで家の手伝いをする場面 を教材として扱っています。また、 6年p.206～209 では、 みんなで協力し合って学級目標の達成に取り組む場面 を教材として扱っています。
8. 我が国の伝統や文化を大切に する態度を育成するとともに、 他国の人々や文化について 理解が深められるように配 慮しているか。	①地域の歴史や文化に関わる場면을教材として扱い、興味・関心が高められるように工夫しています。	●例えば 5年p.256～257 では、ユネスコ無形文化遺産に登録されている「 和食 」を教材として扱っています。また、 6年p.54 では、 伝統工芸品などのデザイン から対称な形を見つける活動を扱っています。
	②国や文化、時代に関わらず、算数の学習の 普遍性が感じられるように教材を工夫して います。	●例えば 4上p.162 では、いろいろな国のわり算の筆算のしかたを紹介しています。また、 6年p.241～242 では、江戸時代の算数として「 和算 」を紹介しています。
9. 考えを表現し伝え合う学習活 動を積極的に取り入れるな ど、算数科の目標を実現する 手立てとして言語活動の充実 が図られるように配慮してい るか。	①数学的な見方・考え方と言葉に関連づけ、 言語活動の中で見方・考え方を意識して用 いることができるように工夫しています。	●巻頭の【算数で使いたい見方・考え方】や、毎時の【なるほど!】などでは、 子どもの言葉で見方・考え方を表現 し、以降の学び合いの場面でもそれらの言葉を使って学び合えるようにしています。 ☞本資料p.2 A-1-③、本資料p.4 A-3-①②
	②発表・話し合い、ノート記述などの表現活 動を豊富に取り入れています。	●全学年にわたって、 数学的な表現を用いて考え学び合う学習活動の充実 を図っています。また、数直線などの図を用いて考え表現する力を育てたり、ノートに書く力を高めたりすることにも配慮しています。 ☞本資料p.4 A-3-①②③④
10. コンピューター等を効果的に 活用して学習できるように配 慮しているか。	①教科書からデジタルコンテンツにリンク し、動的な表現によって理解を深めたり、 反復練習によって習熟を図ったり、思考・ 表現の活動に焦点化できるようにしたり、 授業準備や板書を効率化したりするなど、 ICTの特性を生かした学習ができるように 工夫しています。	●例えば 3上p.128 では、 コンパスの使い方 を動画で見られるようにしています。 2下p.26 では、 繰り返し九九の暗唱 に取り組みます。 5年p.205 では、図形を分割したり移動したり、試行錯誤をとおして 図形の面積の求め方 を考えることができます。 4上p.47 では、 グラフを作成したり作り変えたりする操作 を容易に行うことができます。 ☞1年p.32(時計)、3下p.111(そろばん)、4下p.109(立方体の展開図)、6年p.112(円の面積)等
	②全学年において、プログラミング教材や表 計算ソフトを用いた活動を取り入れ、プロ グラミング的思考や情報活用能力が育成さ れるように工夫しています。	●毎時のまとめに【まとめアニメーション】を設け、文字だけでなく視覚的にも理解が深められるようにしています。 ☞本資料p.3 A-2-① ● 5年p.234～235 では、操作が簡単な 独自開発のプログラミング教材 を使って、「正多角形の作図」のプログラミングを体験できるようにし、試行錯誤をとおして「 プログラミング的思考 」を育成します。また、 3上p.152 では 表計算ソフト を使った計算のしかたを取り上げ、7×6のセルにいろいろな式を入力して答えを表示させる活動を扱っています。 6年p.270 では 表計算ソフト を使ったグラフのつくり方も取り上げます。 ☞1年p.187、2上p.145、4下p.165



観点	特色	具体的な事例
11. 具体的な体験を伴う学習をと おして、理解を深めたり学ぶ 意義を実感したりできるよう に配慮しているか。	①ブロックやおはじき、折り紙などの具体物を用いるなど、実感的な理解が得られるように活動を工夫しています。 ②算数を見つたり、問題をつくったりするなど、学ぶ意義を実感する機会を設けるように工夫しています。	●計算のしかたを考え説明したり、図形の性質を見いだしたりする場面などでは、具体的な体験によって学ぶ活動（ハンズオン）を重視しています。例えば1年p.172では、順序数の加法についてブロックと図と式を対応させて考えていきます。6年p.85では、切り紙遊びをとおして図形の対称についての感覚を育てていきます。 ●例えば2上p.58では、身のまわりのものの長さを測り、長さの図鑑を作る活動を取り入れています。また、4下p.95では、学校の中から乗法や除法が使える場面を見つけて、問題づくりをする活動を取り入れて、学んだことのよさを実感できるようにしています。
12. 数量や図形についての感覚を 育て、およその大きさや形を 捉えて能率的な処理のしかた を考え出せるように配慮して いるか。また、筆算による計 算技能の習得や、その際に見 積もりを適切に用いることな どに配慮しているか。	①数量や図形についての豊かな感覚を育てる問題を随所に扱っています。 ②計算技能の確実な習得のために、練習問題の充実を図るとともに、見積もりを生かして計算の見通しを立てたり、計算結果の確かめをしたりするよさを意識づけ、学習に活用していくように動機づけています。	●数感覚や図形感覚を養うコラム【もっとやってみよう】を随所に設けています。例えば、2上p.28では和が50になる式をいくつも考える問題を扱っています。また、3下p.27では重さが10kgにいちばん近いものを選ぶクイズを扱っています。図(2年以降) 2上p.46、3下p.19、4上p.116、5年p.158等 ●「毎時の学習」「単元のまとめ」「家庭学習」の各段階で、習熟を図るための練習問題を豊富に扱っています。図本資料p.3 A-2-④ ●3上p.43では、加法の筆算に関連して「見積もり」の用語を導入します。また、3下p.19の乗法の筆算の場面などでも、計算結果の確かめに見積もりを活用するように促しています。図形領域においても、4上p.126では、平行四辺形を作図する前に、頂点がどのあたりになりそうか見当をつける段階を設けています。
13. 数学的活動をとおして指導す ることについて配慮している か。	①子どもの問いを軸に学習を展開し、自立的・協働的に問題を解決することとおして、数学的活動の楽しさを味わえるように工夫しています。 ②日常生活から問題を見いだす場面と、算数の学習から問題を見いだす場面をバランスよく扱い、学ぶ意義が実感できるように工夫しています。	●問題発見・解決の過程を【はてな？⇒なるほど！⇒だったら！？】のフキダシで表現し、子どもの問いの連続によって学習を展開していけるようにしています。図本資料p.2 A-1-① ●主体的・対話的で深い学びの様子を紙面で具体的に表現し、数学的活動をとおして学習を進めていけるように構成しています。図本資料p.6 B-1-①②③④ ●単元導入や、単元末・学年末の活用問題などで、身近な題材から算数の問題を見いだしたり、既習事項を発展させて子ども自身が新たな問題をつくったりできるようにして、目的意識をもって数学的活動に取り組めるように工夫しています。図本資料p.5 A-4-①②③
14. 現代的な諸課題に対応して求 められる資質・能力を育成す るための配慮をしているか。	①SDGs（持続可能な開発目標）の達成や環境保全に寄与する態度が育てられるように工夫しています。 ②安全に対する意識が高められるように工夫しています。 ③情報活用能力が育成されるように工夫しています。 ④将来の職業について関心が高められるように工夫しています。	●5年p.293では、食品ロスや再生可能エネルギーに関するグラフを調べる場面を題材として取り上げるなど、SDGsへの関心を高めています。 ●4下p.132～133では、3R（リデュース・リユース・リサイクル）を教材として扱い、環境保全への意識を高めています。また、2上p.115では節水について考える場面を扱っています。 ●防災教育との関連を図り、3上p.36～37では消防訓練を行う場面を扱っています。また、3上p.74～75では防災マップを作る場面、4下p.26では学校で起こるけがについて考える場面を扱っています。 ●デジタルコンテンツを活用して学習することができるようにしています。また、6年p.269では、安全なパスワードに関する話題を掲載し、情報セキュリティについての意識を高めています。図本資料p.8 B-10-①② ●最先端の科学技術を紹介し、算数の有用性を感じられるようにしています。宇宙開発やGPS、AIなどの話題に触れることで、将来の職業を考えるきっかけとなるようにしています。図4上下・5年・6年裏表紙裏

❖ 内容の程度は、子どもの発達段階に配慮した適切なものになっているか。

C 内容の程度	観点	特色	具体的な事例
	1. 本文内容や練習問題の程度は適切であるか。	①基礎的・基本的な内容に重点を置き、発達段階に即して無理なく学習が進められるように工夫しています。	●学習のまとまりごとに「課題→ステップ→発表・話し合い→振り返り・まとめ→たしかめ→練習」という展開で構成しています。解決の手がかりとなる既習事項をフキダシ等で示すなど、概念や見方・考え方を無理なく拡張していけるようにしています。
		②練習問題は、基礎的・基本的な問題を重点的に扱うとともに、選択的に取り組めるように工夫しています。	●練習問題は、毎時の学習の定着・習熟に必要な内容で構成しています。計算練習では基本的な型を色分けして最低限取り組む問題を明確にし、学習進度に合わせた使い方ができるようにしています。
	2. 個に応じた学習への取り組みがなされているか。また、少人数指導においても扱いやすい構成になっているか。	①習熟度に応じた学習指導がしやすいように工夫しています。	●単元の導入では既習事項をスパイラルに重ね合わせ、新しい学習との差異に着目しやすくしています。また、例えば3下p.91や5年p.173など、単元間の【復習】ページでは、次単元に必要な既習事項の確認問題【じゅんび】を設け、習熟度別のコース分けにも利用しやすくしています。☞本資料p.6 B-2-① ●問題解決に必要な知識・技能等の振り返りページ【学びのマップ】を設けることで、子どもの習熟度に応じた支援ができるようにしています。☞本資料p.3 A-2-③ ●毎時の練習問題から巻末【ステップアップ算数】にリンクし、「きほんの問題」と「ジャンプ問題」に分けて、習熟度に応じて練習問題の量を調整できるようにしています。☞本資料p.3 A-2-④ ●単元の【まとめ】や【復習】では、【考えるヒント】を適宜設け、つまづきに対する支援をしやすくしています。☞本資料p.3 A-2-②
		②「発展的な学習内容」や、応用・活用問題を豊富に扱っています。	●理解を深めるために有効な場面では、学習指導要領の範囲外の内容も扱っています。例えば2上p.121では、三角形や四角形と関連して、「五角形」の用語を扱っています。5年p.202では、四角形の包摂関係を扱い、学習を深められるようにしています。☞1年p.161、3上p.105、4上p.22、6年p.232等 ●特設教材【算数ワールド】では、算数のよさを味わったり、数学的な見方・考え方を発揮したりする教材を設けています。例えば6年p.190～191では、拡大図の作図方法を活用して校庭に地上絵をかく活動を扱っています。☞1年p.148～149、2上p.134、3上p.108～109、4下p.25、5年p.172等

❖ 組織・配列は、学習が有効に進められるように配慮されているか。

D 組織・配列	観点	特色	具体的な事例
	1. 内容は系統的・発展的に組織・配列されているか。	①系統性や習熟期間などを考慮し、最適な学習効果が得られるように単元配列を工夫しています。	●既習事項を活用したり統合したりして、学習内容や見方・考え方を関連づけて学べるように配列しています。例えば第3学年では「分数→小数」の順に配列しています。まず第2学年の分割分数の学習をもとに量分数を導入し、量分数の見方・考え方を生かして小数を導入するようして、既習事項を活用しながら概念を拡張していきます。
		②図表現の系統にも配慮しています。	●ブロック図や○の図、テープ図（線分図）、数直線等を段階的、系統的に使い、思考・表現の道具として活用していけるようにしています。☞本資料p.4 A-3-③
	2. 基礎的な学力の習熟や維持が図られるように配慮しているか。	①繰り返し学習の機会を適宜設け、基礎的な学力が習熟、維持されるように工夫しています。	●単元の間に【復習】をはさみ、学年末には【学年のまとめ】を設け、基礎的・基本的な知識・技能が維持されるようにしています。また、家庭学習にも用いることができるページ【ステップアップ算数】を設け、理解の程度に応じて学力が習熟、維持、向上されるようにしています。☞本資料p.3 A-2-④

❖ 分量や時間は無理なく学習が進められるように配慮されているか。

E 分量・時間	観点	特色	具体的な事例
	1. 各学年の内容の分量は適切に配分されているか。	①基礎・基本の内容と、選択的な内容を分けて、標準時数の中で無理なく習得することができるように工夫しています。	●各学年17単元程度で構成しています。各学年とも予備時間を設定し、 余裕をもって学習指導にあたれるように しています。基礎的・基本的な内容を丁寧に扱い、学習内容を確実に理解できるように配慮するとともに、補充的学習や応用・発展的学習に用いることができる問題やコラムも扱っています。
F 表記・表現	2. 練習問題は習熟に十分な分量になっているか。	①単元の学習や家庭学習において、知識・技能の定着のために十分な分量の問題を用意しています。	●第1学年では、単元と単元の間に【たしかめもんだい】を設け、 発達段階に適した反復練習 が行えるようにしています。第2学年以降では、 単元内で適切な分量の練習問題 を扱うとともに、巻末に【ステップアップ算数】を設け、 家庭学習でも取り組めるように しています。☞本資料p.3 A-2-④

❖ 表記・表現は国語科等との関連を図りながら、理解しやすいように配慮されているか。

F 表記・表現	観点	特色	具体的な事例
	1. 文章表現は平易で理解しやすいように配慮しているか。	①文章表現は平易で簡潔、かつ理解しやすいように配慮しています。	●文章表現は、 正確、簡潔、かつ子どもに誤解のないわかりやすい表現 を用いています。また、全学年において、読みやすい改行に配慮しています。☞本資料p.7 B-6-①
G 絵・写真	2. 人権や社会の多様性(LGBTQ等)に配慮しているか。	②算数用語について、正確かつ簡潔な表現で定義するとともに、言葉を豊かにする話題を紹介しています。	●索引を設け、既出用語の意味を確認して正しく用いることができるようにしています。また、 1年p.188 では、文章題の答えに用いることが多い 助数詞を一覧表 にまとめています。 2上p.22 では「筆算」の字義を紹介したり、 3下p.41 では分数の横棒を「括線」と呼ぶことを紹介したりするなど、 語彙を豊かにする工夫 をしています。
		①教材の選定や場面の表現では、社会的差別や性差別を助長することがないように十分に配慮しています。	●言葉遣いや服の色など、 ある固定観念で性別を特定しないように 配慮しています。また、活動場面における役割等について、性別で偏りがないように配慮しています。

❖ 絵・写真などは子どもたちに親しみやすく、問題解決を促すように工夫されているか。

G 絵・写真	観点	特色	具体的な事例
	1. 絵・写真は、学習を進めるうえで効果的なものになっているか。	①絵や写真は、子どもの学習活動を効果的に進める目的に照らして適切なものを厳選しています。	●落ち着いたタッチのイラストを用い、 学習に集中 できるように配慮するとともに、子どもの 想像力 に働きかけ、 内容の理解に資するもの になるように工夫しています。また、作業的・体験的な活動の場面では 写真を用いて動機づけ をしたり、作図のしかたでは 連続写真を用いて手順をわかりやすく したりしています。

❖ 印刷は見やすくなっているか、また、製本は堅ろうになっているか。

H 印刷・製本	観点	特色	具体的な事例
	1. 学びやすさに配慮し、印刷や造本、紙質などを工夫しているか。	①読みやすく鮮明な印刷、丈夫な製本になっています。	●あじろ綴じ製本を採用し、 本を開きやすく するとともに、 製本は堅ろう で長期の使用にも耐えられるように配慮しています。 印刷は鮮明 で、落ち着いた学習できる色彩に配慮しています。
I その他		②児童の身体的な負担について十分に配慮しています。	●紙の強度を維持しつつ、 教科書用紙として最も軽量な紙 を使用しています。身体への発達にも配慮し、第2～4学年は分冊にしています。また、 再生紙と植物油インキ を使用し、表紙には 抗菌加工 を施しています。

❖ 資質・能力の育成に向けて、編集上の創意・工夫がされているか。

I 創意・工夫	観点	特色	具体的な事例
	1. 「学びやすさ」という観点で工夫がされているか。	①算数の学び方を身につけられるようにしています。 ②「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」の両面で、学習内容をわかりやすくまとめています。	●巻頭【みんなで算数をはじめよう！】では、問題解決の進め方を学べるようにしています。また、【まなびリンクを使って学ぼう】では、コンピューターの使い方を学べるようにしています。☞本資料p.6 B-1-① ●毎時のまとめでは、知識・技能のまとめだけでなく、【なるほど！】のフキダシで見方・考え方もしっかりおさえます。☞本資料p.6 B-1-④ ●単元末のまとめでは、【ふり返ろう】で「知識」の確認、【たしかめよう】で「技能」の確認をして、【4コマ漫画】で「見方・考え方」を振り返ります。☞本資料p.3 A-2-④ ●巻末【学びのマップ】では、既習の見方・考え方や知識等を一覧で掲載し、繰り返し参照して学び直せるようにしています。☞本資料p.3 A-2-③
	2. 「授業のしやすさ」という観点で工夫がされているか。	①指導内容や見方・考え方の系統性がわかりやすくなっています。 ②問題解決型の授業の流れに沿った学習展開で構成しています。 ③主体的な学びのきっかけをつくる導入のしかたや、対話的な学びを促す発問のしかたがわかりやすくなっています。	●「数学的な見方」「数学的な考え方」「知識」「技能」のそれぞれについて、前学年までの学習内容をわかりやすく整理しています。例えば6年では、p.4～6【算数で使いたい見方・考え方】、p.276～287【学びのマップ】、p.271～275【学びの手引き】の各コーナーで扱っています。 ●学習のまとまりごとに「課題→ステップ→発表・話し合い→振り返り・まとめ→たしかめ→練習」という展開で構成するとともに、引き出したい問いや多様な考えを示しています。ページめくりや単元名を隠す手法などを使って、見通しや自力解決の段階では単元名や解決方法が見えないようにして、教科書を使って問題解決型の授業が行えるようにしています。☞(2年以降 各単元) ●単元導入の見出しでは、子どもが目的意識をもって数学的活動に取り組むきっかけとなる発問を示しています。☞本資料p.5 A-4-① ●話し合いの場面では【学びを深める問い？】をフキダシで示し、取り上げたい子どものつぶやきや、話し合いを方向づける発問を明確にしています。☞本資料p.4 A-3-①
	3. 「学力向上」という観点で工夫がされているか。	①習熟の機会を豊富に設けるとともに、各種学力調査等で課題がみられる基礎・基本の問題を意図的に取り上げ、丁寧に支援しています。 ②全国学力・学習状況調査における調査問題をふまえ、読解力・表現力等を育成する問題を扱っています。	●各単元の【まとめ】では、典型的な誤答がみられる問題を意図的に取り上げ、マークを付けて意識化を図るとともに、【考えるヒント】を掲載して支援しています。 ☞本資料p.3 A-2-② ●単元ごとの活用問題【学んだことを使おう】を設け、継続的に読解力・表現力等を育成していきます。 ●学年末の活用問題【算数を使って考えよう】では、全国学力・学習状況調査で出題されるタイプの問題を扱い、算数を活用する力を育てていきます。☞本資料p.5 A-4-②③
	4. 「算数好きを増やす」という観点で工夫がされているか。	①自ら考えたり、友だちと学んだりする楽しさを味わえるようにしています。 ②子どもたちの興味・関心を高める教材を豊富に用意しています。	●新学年の始めの授業開き教材では、問題解決の楽しさを味わいながら、学習の進め方・学び方、算数を学ぶ態度について学級で共有できるようにしています。☞本資料p.5 A-4-④ ●知識を広げる【脚注コラム】(3上p.127、4上p.19、5年p.188等)、単元まとめの【4コマ漫画】(2上p.16、4下p.46、6年p.52等)、単元間の【算数ワールド】(2下p.56～57、3上p.108～109、6年p.190～191等)、巻末の【広がる算数】(4下p.162～163、5年p.292、6年p.268等)など、さまざまな視点から興味・関心を高め、算数を学ぶ楽しさを味わえるようにしています。